



# 本年度富士山御神事はじまる

## 開山御神火大祭

(六月三日)

## 御神實富士登岳

(七月十六日)



No.467

平成22年6月3日発行  
〒156-0043 東京都世田谷区  
松原1-7-20

扶桑教大教庁

TEL : 03-3321-0238

大神様の御加護をいただきまして、本年も御山神事を迎えることができました。

本教の御山神事は、六月三日の開山御神火大祭を皮切りに、七月十六日からの御神實富士登岳・供奉登拝修行と続いてまいります。

開山御神火大祭は、開祖角行東覚さま天命直受の吉日に、本庁境内に特設された斎火壇で、盛大に催されます。この御神火は未だ噴火のエネルギーを蓄える富士山の象徴でもあり、種々の穢れを払い清める清浄な炎でもあります。

御神實富士登岳・供奉登拝修行は、元和六年庚申四月寿齢八十歳の砌、御開祖角行東覚さまがご奉斎された御神實を、富士山八合目の富士山天拝宮に御還座申し上げる御神事で、御神實は八月二十

日まで富士山中に御留まりになり、その後各教会を御巡幸された後、九月二十三日の報元大祭に本庁へと御還幸されます。



御神實が奉安される富士山天拝宮は、富士山北口八合目、海拔三二五〇以上の地に「烏帽子岩」と称される巨岩を背にして鎮座しています。この地は享保十八年七月十三日に元祖食行身録さまが入定までの三十一日間を御修行された御聖地で、いまなおその御聖骸を、お祀りする御霊場でもあります。

杉山管長様には、御山の期間中、

御神實の御側近くに御奉仕して過ごされます。この地は近年の富士登山の出発点となった標高二四〇〇以上の五合目から、約八五〇

以上の高所にあり、健脚の方でも約二時間、足弱の方では五時間余りを要します。大変な苦しみを伴う道筋ですが、焦らずに怠げずに一歩ずつ登られて御参拝ください。

本年も、御開祖角行さま・元祖食行さまがお広めになった「他の為の祈り」を、皆様と共に実践し、大神様へ感謝の誠を捧げて参りたいと念願致しております。

### 写真上、 晩春の富士

### 写真右上、 戦前の烏帽子岩

### 写真右下、 七合目を行く御信徒

### 写真左、 天拝宮御内陣



本年は、登拝修行の際大休止をとる七合目の山舎「富士二館（天拝宮に隣接の山舎、元祖室の系列山舎）」が新築されました。新しい木の香も芳しいこの山舎で御神實もそこで休まれ、天拝宮にご奉遷になります。



聖地巡拝 第一回「再生の行場・御胎内」①

神道扶桑教の立教の基でもあ  
る富士山信仰の聖地を、順次ご紹  
介してまいります。

第一回目の今回は「御胎内」を  
取り上げます。

胎内めぐりとは

「胎内巡り」とは、洞窟、巨岩  
の裂け目、密閉された地下室等の  
暗闇を抜けて「再生」の疑似体験  
をする御修行の体験で、秩父三十  
四番霊場水潜寺の洞窟、山形県山  
寺の胎内堂などが知られていま  
す。また、信濃善光寺、京都清水  
寺等の「戒壇巡り」も一種の「胎  
内巡り」といってもいいかもしれ  
ません。

これらの行場では、暗闇の中を手  
探りで歩行し、再び日の光を礼拝  
することで、母胎からの再生を追  
体験できると信じられているよ  
うです。

富士山の御胎内

富士山周辺の「御胎内」の大き  
な特徴は、その内部が母胎の形状

に酷似している点にあります。そ  
もそも、「御胎内」は、富士山の  
溶岩流が立木を飲み込み、折り重  
なった立木が燃焼することで、固  
まった溶岩の内部に空洞が形成  
されたものです。富士山の溶岩は  
粘性が強く、うねるように押し寄  
せる溶岩の重なりや立木の皮肌  
が、空洞内部に実際の内臓を思わ  
せるような形状を作り上げたも  
ので、これはまさに天然の神秘と  
申せましょう。

これらの「御胎内」は溶岩流が  
至つたところに有名無名を問わ  
ず、かなりの数があるようです。  
しかし、富士山の御聖蹟とされる  
胎内は、吉田・河口湖口の「新・  
旧胎内」、御殿場口の「印野胎内」、  
精進口の「精進お穴」などの数か  
所に限られます。その中でも常時  
拝観ができるのは吉田河口湖口  
の「旧胎内(船津内)」と「印野胎  
内」のみで、御崇敬の皆様には実  
際に御修行をされた方も多数い  
らっしゃると思われれます。

吉田胎内祭り

河口湖口のもう一つの御  
胎内、「新胎内(吉田胎内)」  
は、四月二十九日に一度だけ公  
開される御聖蹟です。ふだんは北  
口御師団によって、厳重に密閉さ  
れている御胎内ですが、この日の  
み御崇敬の皆様のお参拝に合わ  
せ、御焚き上げが行われ、御胎内  
内部の御参拝が許されます。

この吉田胎内は、貞観六(864)  
年の噴火の際に出現したもので、  
剣丸尾溶岩流の東縁にあり、吉田  
口登山道の「中の茶屋」から約1  
300mの位置にあります。一般  
に知られるようになったのは意  
外に新しく、明治二十一年に埼玉  
県志木市の丸藤講社によって開  
關されたといわれています。



吉田胎内の古絵葉書。  
「神胎内」と誤記されている。



吉田胎内開口部

祭礼の当日、皆様は旧御師旧御  
師の「数珠屋」に集合し乗用車に  
乗りあつて出発いたします。中の  
茶屋の脇の登山道に入り、しばらく  
行くところとちよつとした空き地が  
あり、そこで車をおります。空沢  
を二つ渡ると小屋が見え、その付  
きあたりに御胎内が口を開けて  
います。



塩加持の勤行

小沢輝展師(扶桑教創設時の功  
労者「小沢彦運師」の曾孫で本教  
教師)の祝詞奏上の後、本教神事  
師範(横須賀丸伊講)の斉藤先達、  
丸金神奈川講の岩田先達を主催  
としてお焚き上げが行われます。  
その後、希望者は御胎内に入坑で  
きますが、縦坑を降り噴火以前の  
千二百年前の地表に触れる経験  
は得難いものがあります。

御胎内前の広場では、斉藤先達  
主催の「塩加持」が催行され、人  
跡稀なこの御霊地も当日は善男  
善女で賑わいます。限られた機会  
ですが、是非一度お尋ねになるこ  
とをお勧めいたします。

(写真・記事は昨年のものです。)  
次回は「旧胎内」を御紹介  
いたします。